



Athena のうごき ..... 1  
 特集「私らしいワーク・ライフ・バランスを探して」 ..... 2  
 宮大で Jump! ～宮崎大学で活躍する女性研究者たち～ ..... 3  
 Mの横顔 宮崎大学子育て応援プロジェクト ..... 3  
 イベントなどのお知らせ ..... 4  
 逆風を順風に～事業担当教員からのメッセージ～ ..... 4  
 編集後記 + α ..... 4

## Athena のうごき

### 第1回事業担当者会議を行いました



6月3日、本学附属図書館3階共同研究室において、「逆風を順風に宮崎大学女性研究者支援モデル」の平成22年度第1回事業担当者会議を開催しました。

この会議は、本事業担当理事である中山副学長ならびに清花 Athena サポート室の伊達室長に加え、各学部から選出された教員16名により構成されるもので、年に2回程度開催しています。各事業担当者は、会議出席以外にも事業推進のアドバイザーとして重要な役割を担っており、清花 Athena サポート室にとってなくてはならない存在です。

今回は、事業担当者10名に加え、各学部庶務担当者がオブザーバーとして参加しました。議題として本事業最終年度となる平成22年度の企画等計画案を提示し、事業推進における課題・問題点を共有しながら議論が交わされました。

併せて、昨年度の成果・実績についての報告に基づき、女性教員比率の推移など本事業のミッションステートメント（達成目標）の進捗が確認されました。それを踏まえ、伊達室長から、文部科学省科学技術振興調整費による女性研究者支援事業の終了後となる来年度以降の方向性について提案が出され、さらなる体制の強化を図っていくという方向で一致しました。

### 育児・介護に関するガイドブックを作成しました

このほど、清花 Athena サポート室では、「宮崎大学 育児・介護に関するガイドブック」（A5版 16ページ）を作成しました。このガイドブックは、平成22年6月30日に施行された育児・介護休業法の改正にも対応した情報を盛り込んでいます。

ガイドブックでは、妊娠から職場復帰までをサポートする育児関連の制度、新設された介護休暇を含む介護関連の制度など「聞いたことはあるけれどよく知らなかった」ことを、チャートなどを用いてより分かりやすく紹介しています。

サポート室では、これまでも育児や介護に関する制度等について情報を蓄積し、相談者に随時提供してきました。今後はこのガイドブックを通じて、より多くの教職員に利用できる制度情報を提供するとともに、働き方を考えるきっかけとしてもらえればと考えています。

ガイドブックは、各部署や担当窓口等を通じて順次学内で配布していく予定です。



「宮崎大学 育児・介護に関するガイドブック」

### 今年度の助成事業採択者が決定しました

本事業では、女性研究者の研究の質を向上させるとともに、自己実現をサポートすることを目的に各種助成を行っています。7月現在での本年度採択状況は、右にまとめているように、各事業で延べ186名が採択されています。

ホームページでは採択者によるコメントを紹介するコーナーを設け、各事業の終了後に感想等を掲載しています。今年度事業については、「研究助成費」の採択課題を近日掲載予定です。さまざまな女性研究者の活躍の様子をぜひご覧ください。

助成事業	教員等	大学院生
国際学会派遣 (22年4月～9月派遣分)	5名	9名
出産・育児・介護に関わる女性教員 に対する研究補助者雇用 ※1 ※2	9名	—
TA・RA（女性枠）経費 ※2	—	134名
女性研究者支援のための 研究助成費	12名	17名

※1 出産・育児を理由とする者は7名、介護を理由とする者は2名。  
 ※2 研究補助者雇用は女性教員のみ、TA・RA経費は大学院生のみ対象。



## ～特集～

# 私らしいワーク・ライフ・バランスを探して

一人ひとりが「私らしく」仕事を続けるには、何が必要なのでしょう？今回は、仕事と、仕事以外の生活（家庭や趣味、地域活動など）を両立させることについて「ワーク・ライフ・バランス」をキーワードに考えてみました。

## ■ワーク・ライフ・バランスって何のこと!?

最近よく耳にする「ワーク・ライフ・バランス」…皆さんはご存知ですか？「仕事と生活の調和」と訳されます。一昔前は24時間働く人を「企業戦士」と称えるような風潮もありましたが、現在は仕事の方に偏重することなく仕事以外の生活も充実させたいと考える人が増えてきています。「ワーク・ライフ・バランス」は仕事と仕事以外の生活が良い均衡を保ち、さらに両方が良い相乗効果を生むような充実した生活を目指すもののだといえそうです。

企業においても、ワーク・ライフ・バランスやダイバーシティ（性別や国籍に関係なく、多様な人材を活かすこと）に対する取り組みを行うことは、社員のモチベーション向上や、優秀な人材の確保に繋がるなど経営戦略の一つであると考え、積極的に取り組む企業が増えています。

## ■あなたのワーク・ライフ・バランス満足度は？

2010年5月にランスタッド・ホールディング（本社：オランダ）が世界主要25カ国で労働者を対象に行った「ワーク・ライフ・バランス」に関する意識調査によると、職場に対して「非常に満足している」との回答が日本ではわずか4%で、北欧に比べて非常に低い結果となりました。

一人ひとりの「ワーク・ライフ・バランス」を実現できない現状に不満を感じている人が非常に多い中でも、女性の場合は、家事や育児・介護などの負担により仕事の継続が男性以上に困難なケースも見受けられます。また、逆に男性では、もっと家族に関わりたのにかかわれない…そんな悩みを抱える人が多いようです。

家庭において家事や育児などの役割分担を行い、仕事を継続するためには、男性・女性を問わず働き方の見直しが必要だと言えます。100人いれば100通りの働き方や生活があることはもちろんであり、それに対応できる柔軟な働き方の促進や長時間労働の是正に取り組むことで「ワーク・ライフ・バランス」の満足度は向上すると考えられます。

## ■宮崎大学が取り組んでいること

一人ひとりのよりよい「ワーク・ライフ・バランス」を実現するためにも、個別の事情に対応できる柔軟な制度と、それを適切に運用するための意識改革が必要です。宮崎大学においても、右記のような取り組みを行い、教職員一人ひとりが各種制度を安心して利用できるよう、また、モデル的な事業所のひとつとして地域に貢献できるよう、個人の多様性を認め尊重しながら働きやすい職場環境づくりに努めています。

## 女性研究者のワーク・ライフ・バランス事情

女性研究者を支援する動きが全国各地の大学で進んでいます。そうした取り組みの背景には、女性研究者を取り巻くさまざまな事情があります。

日本における女性研究者の割合は、欧米諸国に比べて低く13.0%にとどまっており、その原因の一つとして、育児や介護と研究の両立が困難であることが挙げられます。成果や実績を挙げたい20～30歳代の若手女性研究者にとって、研究者としてのキャリアを積む重要な時期と出産・子育ての時期が重なることは、大きな壁です。その壁をできるだけ低いものにするために、さまざまな取り組みが進められています。特に理工系分野では、大学院に進学する女性は増加する傾向にありながら、女性研究者の増加はそれほど見られず、各機関でさまざまな対策が講じられています。

### 【ある女性研究者のライフイベント】



※キャリアかべ…キャリア形成の邪魔をする壁を妖怪に例えました。

### 【女性研究者に忍び寄るさまざまなキャリアかべ】

私はどんな働き方をすればいいの？  
⇒ロールモデルの不在

同業の夫は県外…子育ては一人で!?  
⇒一か所にとどまらない研究者特有のキャリア

深夜に及ぶ実験…やりがいはあるけどやっぱり大変  
⇒不規則なライフスタイル

日進月歩の研究領域から離れるのが怖い  
⇒キャリア中断への不安

育児休業中に任期が切れてしまう  
⇒雇用制度の在り方

- 学内保育所「くすの木保育園」の設置
- 学内向け広報紙「かわらばん」による啓発活動
- 育児・介護やキャリア形成等に関する相談への対応
- 育児・介護休業制度やその他休暇制度の取得促進と周知
- 出産・育児・介護を理由とした研究補助者の雇用
- 子育て介護応援シール・バッジの配布 など



# 宮大で Jump!

～宮崎大学で活躍する女性研究者たち～

宮崎大学で研究に取り組んでいる女性は現在 275 名（教員 86 名、院生 189 名）。でも、実際にどんな女性がどんな研究で活躍しているかは意外と知られていないのではないのでしょうか。そこで、このコーナーでは宮崎大学で活躍する女性研究者を紹介します。



産学連携センター

准教授 西園 祥子 さん

## 【略歴】

鹿児島県出身。九州大学農学部卒業。九州大学大学院博士後期課程修了。博士（農学）。県立長崎シーボルト大学看護栄養学部栄養健康学科 助手。平成 18 年 4 月より現職。

## 一研究内容を教えてください

産学連携センターの専任教員としてセンター業務 50%、研究 50%の-effort で仕事をしています。センター業務では、本学の先生方のシーズと企業のニーズのマッチングを図るためのコーディネート活動や企業からの技術相談の窓口業務を行っています。研究テーマは、宮崎県の農産品をはじめとした食品素材の生活習慣病予防効果に注目して、機能性を発揮する成分の同定やその作用メカニズムの解析を行っています。企業と共同で地域資源を活用した機能性食品の開発に向けた共同研究も進めており、特にシークワシャーの研究は商品化へと進んでいます。

## 一仕事と家庭の両立について大変なことはありますか？

配偶者は長崎大学に勤務しておりますので、現在、私は 2 歳の娘と二人暮らしです。もともと宮崎には親せきなどがあるわけでもありませんでしたし、普段は学内保育所にお世話になり、出張などの際には鹿児島の父母へ子どもを預けています。やはり何らかのサポートは必要ですし、学内保育所が

あることで出産・育児を頑張れるという方もたくさんいらっしゃると思います。ただ学内保育所の現状としては、常に満員の状態のようなので、子どもが大きくなったら一般の保育園に移す方が他の育児休暇を取得されている方が早く仕事復帰するためには良い気がして心配しています。また、子どもが小学生になった時のことなどを考えると、もう少しサポート体制が充実していけばと期待しています。

## 一女性研究者支援についてどう思いますか？

本学の女性研究者支援事業では、学内公募による「研究補助者雇用」の制度を利用しており、大変、助かっています。学外への出張やデスクワークも多く、実験をコンスタントに出来ない状況なので、補助者の方がいなければきっと子どものお迎えにも間に合わず困っていただろうと思います。

## 一研究者を目指す女性にアドバイスをお願いします

私は、研究者・母・妻としての全ての立場を完璧にこなすことは最初から無理だと感じています。どの立場も大切にしようとする、周囲を巻き込むことは仕方ありませんし、家族をはじめとして様々な方々の支援がなければ続けられないと実感していますし、その分、周囲には大変、感謝しています。自分なりに 3 つの立場のバランスをとって、できる範囲で頑張ってみようという気持ちで取り組む方が、あまりプレッシャーを感じずにやっていけるのではないかと思います。両立できそうにないから結婚や子どもをあきらめるというのではなく、欲張りかもしれませんが、すべての立場をがんばっていくという気持ちが必要なのではないでしょうか？

このコーナーでは宮崎大学で配布中の「子育てバッジ・シール」「子育て応援バッジ・シール」を利用している人にスポットを当てます



## の横顔

一宮崎大学子育て応援プロジェクト

IR 推進機構 IRO 特任助教 井田 隆徳さん

娘の祥子はちょっとした有名人です。なぜなら、私が研究会で発表するたびに、ショウジョウバエで研究を始めたときに生まれたから「祥子」になったと写真付きでしゃべるからです。なので普通、「お子さん、元気？」と聞かれるところが「祥子ちゃん、元気？」と多くの人に声をかけてもらえます。たくましく育てて欲しいものです。息子の隆弘は早いもので小学校 1 年生になりました。生まれたときから、犬、猫に囲まれて育っています。

今回、口蹄疫で動物に囲まれた日常生活が一瞬で変わってしまったご家庭がたくさんあると聞きます。親はもちろん、子ども達も深く傷ついていると思います。「子どもは社会の宝だ」と最近本当によく思います。4 月から学生だった頃に所属していたボランティアサークル「びいだま」の副顧問になりました。「びいだま」の得意分野は特に子どもと動物です。「びいだま」の学生さんだけでなく、他のサークルの方達とも連絡を取り合っており、地域の子供達元気に暮らしていけるよう少しでも役に立ちたいと思っています。がんばろう宮崎！

■ホームページ：<http://www.cc.miyazaki-u.ac.jp/~a0d203u/index.html>



祥子ちゃんの 2 歳の誕生日。お兄ちゃんが誕生日ケーキを作っているところ

農学研究科 2 年 応用生物科学専攻 東 沙樹さん

子育て、ということを感じ始めたのは、本当にここ数年のことです。それまではどこか遠い世界の話のように感じていましたが、この数年で親しい友人たちが次々結婚・出産し、彼女たちの子育て奮闘記を聞くたびにその壮絶さに驚かされるようになりました。初めは仕事との両立を目指していた友人たちも結局仕事のほうを諦めてしまうことが多く、子育ての大変さを痛感しているようです。ただ、出産して子どもを育てるとしての喜びもまた大きいらしく、大変だと言いながら幸せそうに笑う姿を見ていると何だか羨ましいような気にもなってきます。

女性だからといって、子育てを理由に仕事や研究を諦めなくてはならないのはおかしい。でも、仕事や研究を理由に子育てを疎かにするのもおかしい。これらの両立には、周囲が理解し協力する環境が必要なのでしょう。だからこそ今の自分が協力できることとして、今日も私は m のバッジを身につけて歩きます。





# イベントなどの お知らせ

## 「みやだい育メン養成講座」を開催します

子育てを積極的に楽しむ男性、通称「育メン」を宮崎大学から輩出しようと、初の養成講座を開講します。宮崎大学で働く男性教職員で、子育て真っ最中のパパはもちろんのこと、これからパパになるプレパパを対象とした全3回の楽しい講座を予定しています。講座の様子は次号ニュースレターで詳しくご報告しますので、楽しみに！

### 「みやだい育メン養成講座」の開催日程

- ①親子で楽しむ、絵本の読み聞かせ  
8月21日(土) 10:00～12:00
- ②ビニール袋で大きい動物を作ろう！  
9月12日(日) 9:00～12:00
- ③パパの愛情お弁当&パパ友作り交流会  
9月26日(日) 10:00～14:00



## Q-wea<九州アイランド女性研究者支援ネットワーク> が活動中です

九州では、昨年の「宮崎発！九州アイランド女性研究者支援シンポジウム」開催を機に、女性研究者支援に取り組む大学間の連携が深まっています。今年4月には「Q-wea(きゅーうい)」というネットワークの愛称が誕生、各大学の取り組み等を紹介するサイト「Q-wea's net」もスタートしました。

Q-weaでは、女性研究者支援や働きやすい環境づくりに関する情報交換を進めるとともに、九州地区での先例的モデル群としての相乗効果や、多様なアイデアを広く発信できる場をつくっていきたいと考えています。

そしてこの夏は「Q-wea's summer」。9月に佐賀で開催される第2回シンポジウムにあわせて、各大学でもさまざまなイベントを開催します。「Q-wea's summer」についても詳しい情報を掲載したリーフレットはQ-wea's netからご覧いただけます。



■ Q-wea's net アドレス→ <http://qwea-net.blogspot.com/>

## 編集後記 + α

先日、育児休業中の方が5カ月になる赤ちゃんと一緒にサポート室を訪ねて来てくださいました。生まれる前から知っていたけれども「はじめまして」の赤ちゃんは、すやすやと眠っていてとてもかわいらしい赤ちゃんでした！

サポート室が設置されて約2年。時々このように教職員の方のお子さんと会う機会をいただきます。6月12日にパパ・ママである教職員の呼びかけで行われた「子育て交流会」のお手伝いをさせていただき、18名のお子さんと出逢いました。同じ職場で働く方のお子さんの顔を知ること、子育てを応援しやすい環境づくりに繋がると思います。「子育て交流会」の輪がどんどん広がりますように！



### 国立大学法人宮崎大学 清花 Athena サポート室

木花キャンパス 〒 889-1692 宮崎県宮崎市学園木花台西 1-1 Tel&FAX : 0985-58-7508 内線 : (92)7508  
清武キャンパス 〒 889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原 5200 Tel&FAX : 0985-85-1252 内線 : (95)2327  
<http://www.miyazaki-u.ac.jp/~kiyohana/> E-mail: [info-athena@med.miyazaki-u.ac.jp](mailto:info-athena@med.miyazaki-u.ac.jp)

## ～逆風を順風に～

事業担当教員からのメッセージ

工学部土木環境工学科 教授 <sup>なかざわ たかお</sup> 中澤 隆雄

私は、結婚した昭和48年1月からごく最近まで夫婦共働きでした。妻が小学校の教員をしており、遠い勤務先まで私よりも早く出勤しなければならなかったこともあり、私も家事全般を担わざるを得ませんでした。朝の食事の後かたづけや洗濯、また子どもを授かってから保育園へ送って行くのも私の役割でした。幸い妻の両親が近くに住んでいましたので、かなりの手助けがあり何とかやってこれましたが、これまでよく夫婦喧嘩もし、育児でも大変なことも多くありました。また二人とも大病を患い、人生をかなり悲観した時期もありました。このような中で、夫婦といえどもお互いに精神的にも経済的にも自立できる人間である方がよいということ話し合うなかで支えあってきたことで、乗り越えられたのだと思っています。

最近では様々な女性支援策が打ち出されていますが、自立することは女性の方がはるかに厳しいのが現実だと身をもって感じてきました。女性、男性と区別されることなく、一人の人間として自立して社会と関わっていくことができる世の中の実現を目指して何ができるかを考え、実践していきたいと考えていますが、具体的な行動目標を立てることができているわけではありません。まずは自分の身の回りを見たところ、工学系の教育・研究者が圧倒的に少ないので、数の増加を図るとともに工学系の大学進学希望者の中の女性の比率も高めるためにも、工学の魅力を発信することができればと思っています。